


松江市北部・鹿島町・島根町・美保関町・八束町

枕木山上の山岳寺院

華蔵寺


 松江市枕木町
＜指定＞国重文・彫刻(薬師如来像)市・建造物(楼門)

標高456mの枕木山頂上にある古刹(古いお寺)。開山は平安時代初めまでさかのぼる。山岳仏教の興隆とともに隆盛を極めたが、戦国期に兵火にあい衰退。江戸後期には松江藩の庇護を受けて再興。ふもとから頂上付近までドライブウェイがあり、気軽に訪れることができる。参道にある摩崖仏も必見。

＜交通＞J R 松江駅からバス30分
枕木山入り口下車、徒歩1時間
＜連絡先＞0852-34-1241
＜いにしえ＞6巻P37

出雲最古級の横穴式石室


薄井原古墳

 松江市坂本町
＜指定＞県・史跡

持田平野の東端に造られた全長約50mの前方後方墳。2つの横穴式石室が開いており、どちらも見学OK。6世紀の中ごろに造られたもので、出雲地方では最古クラスの横穴式石室。小さな石をたくさん積んでいる点が、古い石室の特徴の1つ。
＜交通＞J R 松江駅からバス30分
坂本下車、徒歩10分
＜いにしえ＞3巻P26

団地の中の史跡

金崎古墳群

 松江市西川津町
＜指定＞国・史跡

島根大学の北の丘陵、夢ヶ丘団地の中に残された5基の古墳群。もとは11基もあった。1号墳は36mの前方後方墳で、竪穴式石室からは銅鏡や直刀などが出土。とくに須恵器は優品で、一部は京都大学に所蔵されている。
＜交通＞J R 松江駅からバス20分
西川津下車、徒歩10分
＜いにしえ＞3巻P20

戦国時代の山城

白鹿城跡・真山城跡

 松江市法吉町
松江市の北部法吉町で


ひときわ高い山の上には、戦国時代、尼子氏と毛利氏の攻防の際に築かれた山城の跡がある。尼子

氏が標高154mの白鹿山頂に陣取ると、毛利氏はこれを攻めるべく、すぐ北側の256mの真山に城を築いた。これらの頂上には今もあちらこちらに石垣が残されている。

＜交通＞J R 松江駅からバス20分
石橋3丁目下車、徒歩1時間

橋北最大の前方後円墳

魚見塚古墳


 松江市朝酌町
大橋川沿いの多賀神社裏山にある古墳。全長62mの

前方後円墳で、島根半島側の古墳では最大規模を持つ。大橋川南岸にはたくさんの巨大な古墳があり、すべて墳輪を持っているのに対して、北岸のこの古墳は墳輪もなく、1基だけぼつんとある。

＜交通＞J R 松江駅からバス20分
矢田渡場下車、徒歩5分

実物大古墳模型と「人類の橋」


古墳の丘古曾志公園

 松江市古曾志町
宍道湖北岸にある古墳公園。46mの前方後方墳、古曾志大谷1号墳の実大模型をメインに、県内最大級の円墳を含む大塚古墳群、宍道湖周辺の歴史がわかる野外博物館などがある。また地球46億年の歴史を1本の橋にあらわした施設や、野外ステジがあり、いろいろ催しが行われる。ちょっとした遊びのスペースもあり、家族づれで楽しめる。駐車場完備。9時から5時。入場無料。

＜交通＞一畑電鉄朝日が丘駅から、徒歩10分
＜連絡先＞0852-36-6483(管理棟)
＜いにしえ＞7巻P10

文化財調査の最前線


島根県埋蔵文化財調査センター

 松江市打出町
古墳の丘古曾志公園の南にある青瓦白壁の建物。県内各地で行われる文化財調査の中心的役割を担う。発掘調査の速報展示などを行う展示室もあり(無料)自由に見学できる。9時から5時。年末年始以外は無休。

＜交通＞一畑電鉄朝日が丘駅から徒歩10分
＜連絡先＞0852-36-8608
＜いにしえ＞3巻P17、4巻P9

幾何学文様は何をあらわす?


丹花庵古墳

 松江市古曾志町
＜指定＞国・史跡

古墳の丘古曾志公園の北に広がる平野の中に、ぼつんと石棺が露出している。封土の流失が著しいが、もとは47mの方墳であった。古墳時代中期に造られたもので、「大王の棺」と言われる長持形石棺が露出している。そのフタには幾何学文様が彫り込まれているが、何を意味するかは謎。
＜交通＞一畑電鉄朝日が丘駅から徒歩20分
＜いにしえ＞3巻P12

かんぬき状の彫刻


北小原横穴墓

 松江市西浜佐陀町
埋蔵文化財調査センター

近くの国道431号線沿いにある横穴墓。入口をふさぐ石には「かんぬき」状の彫刻があり、部屋の中には石棺が2つある。
＜交通＞一畑電鉄朝日が丘駅から徒歩20分
＜いにしえ＞3巻P16

目をみはる神像群


成相寺

 松江市荘成町
＜指定＞県・彫刻(木造神像群)

行基を開基と伝える真言宗大覚寺派の古刹(古いお寺)。佐太神社の奥の院と称し、かつては12坊を有していた。平安から鎌倉期のおびただしい数の神像群は県内でも類を見ないもので、県指定文化財となっている。
＜交通＞J R 松江駅から車30分
＜いにしえ＞6巻P42

風土記に記された山


朝日山

 松江市東長江町・鹿島町佐陀本郷

松江市と鹿島町を隔てる標高342mの山。『出雲国風土記』に「神山火山」で、古代より信仰の対象であった。頂上には朝日寺があり、周囲の眺めは絶景。長江町方面からは中腹まで車で上られる。
＜交通＞J R 松江駅から車30分
＜いにしえ＞5巻P18、6巻P9

鎌倉期作の秘仏

金剛寺

 松江市東長江町
＜指定＞県・彫刻(木造馬頭観世音菩薩坐像)

山号、瑞応山。出雲観音霊場30番札所。観音堂の木造観世音菩薩坐像は秘仏だが、鎌倉時代の作で県指定文化財。
＜交通＞一畑電鉄長江駅から徒歩20分
＜連絡先＞0852-36-7640
＜いにしえ＞6巻P39

荒神谷との関係はいかに


志谷奥遺跡

 鹿島町佐陀本郷
1978年、島根半島の高峰朝日山の東側の斜面から、銅鐙2個と銅剣6本が一緒に穴に埋められているのが発見された。地主さんが柿の木に肥料をやろうと掘った穴から偶然見つかったものだ。現在、出土地には説明板がある。銅鐙と銅剣は松江市の八雲立つ風土記の丘資料館で、出土状態を再現して展示されている。

＜交通＞J R 松江駅からバス35分
鹿島町役場下車、徒歩15分
＜いにしえ＞2巻P15、5巻P18

縄文人もしじみ大好き

佐太講武貝塚


 鹿島町佐陀宮内・名分
＜指定＞国・史跡

鹿島中学校の前を流れる佐陀川の両岸にまたがる遺跡で、山陰では数少ない縄文時代の貝塚。大正年間に発見され、おもに縄文時代前期から中期の土器や石器、骨角器など、当時の自然環境を知るうえで重要な、多種多様な遺物が出土している。1994年の発掘調査では、厚さ約1mにもおよぶ貝の堆積層が切り取られており、出土した遺物と合わせて、鹿島町立歴史民俗資料館で見学できる。
＜交通＞J R 松江駅からバス30分
佐太神社前下車すぐ
＜いにしえ＞4巻P4、7巻P39

美保関は今では静かな漁港だが、中世には日本海側有数の港町として大いに栄えた。尼子氏はここに関所を置いて、日本海を行き来する船から通行税を取っていた。この港を守った美保神社には、ここに立ち寄った全国各地の船主からの奉納絵馬が多く残されている。

雅な舞、佐陀神能


佐太神社

 鹿島町佐陀宮内
＜指定＞国重文・建造物(本殿)・工芸・無形民俗文化財、県・彫刻・工芸・書跡

佐陀川沿い、神名火山(朝日山)のふもとに鎮座する古社。『出雲国風土記』にある出雲四大神の1つ。社室には指定を受けている貴重な文化財も多く、なかでも国重文の本殿は、大社造りの社殿が3棟並びつづいている。神事は年間75回もあり、国の重要無形民俗文化財である佐陀神能が奉納される9月24日の御座替祭と、11月20日から25日の通称お忌祭りは有名で、参詣の人びとでにぎわう。
＜交通＞J R 松江駅からバス30分
佐太神社前下車すぐ
＜連絡先＞0852-82-0668
＜いにしえ＞6巻P20

キミは増田渉を知っているか


鹿島町立歴史民俗資料館

 鹿島町名分
佐太神社の参道脇にある。古代遺跡の多い鹿島町らしく、この建物の下にも遺跡があった。1階には佐太講武貝塚など、町内出土の考古資料や佐太神社に伝わる美術品などが展示されている。2階は鹿島町出身の中国文学者・増田渉記念室となっている。毎年11月ごろには町内の歴史についての特別展示が企画される。駐車場あり。9時から5時。月曜、年末年始休館。大人320円、高大生210円、小中生110円。

＜交通＞J R 松江駅からバス30分
佐太神社前下車すぐ
＜連絡先＞0852-82-2797
＜いにしえ＞4巻P5

7世紀の方位磁石

講武岩屋古墳


 鹿島町北講武
墳丘は残っていないが、きれいに加工された石をうまく組み合わせて造った横穴式石室がある。天井石の内側は、屋根の形に仕上げられている。入口が南に向いているのは7世紀の横穴式石室の特徴の1つで、全国共通である。

＜交通＞J R 松江駅から車20分
＜いにしえ＞3巻P24

美保関は今では静かな漁港だが、中世には日本海側有数の港町として大いに栄えた。尼子氏はここに関所を置いて、日本海を行き来する船から通行税を取っていた。この港を守った美保神社には、ここに立ち寄った全国各地の船主からの奉納絵馬が多く残されている。

海の民具を見るならここ


島根町歴史民俗資料館

 島根町野波
日本海に面した野波

漁港の近く、野波小学校に隣接している。1階には漁労関連、2階にはそれ以外の民具が集められている。漁業の盛んなこの地に古くから継承されてきた、数多くの工夫いっぱい道具を見ることができる。道路をはさんで向かい側の公民館に言えば開けてもらえる。9時から4時半。土・日曜、祝日、年末年始休館。大人150円、高大生80円、小中生50円。
＜交通＞J R 松江駅からバス50分
野波小前下車すぐ
＜連絡先＞0852-85-2301(島根町中央公民館)

ズラリ並んだ重文の仏たち


仏谷寺

 美保関町美保関
＜指定＞国重文・彫刻(木造聖観音立像ほか)

美保神社の鳥居に向かって右手の石畳を奥に進んだところにある、行基開祖と言われる1000年以上の歴史を持つ寺院。後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐へ配流になったとき、途中の行在所になった。門の右手の大日堂には、国重文に指定されている5体の仏像が安置されている。いずれも平安初期の一木彫り、素朴でダイナミック、地方色豊かなところが魅力。
＜交通＞J R 松江駅からバス80分
美保関下車、徒歩5分
＜連絡先＞0852-73-0712
＜いにしえ＞6巻P38

縄文人が暮らした洞窟


権現山洞窟住居跡

 美保関町森山
＜指定＞国・史跡

島根半島の南側、中海に面した小さい丘にぽっかりと口を開けた洞窟遺跡。民家の裏にある洞窟の入口の幅は7m、中の高さは2~6mと、かなり広々としている。洞窟内からは縄文土器、石器、骨角器などが出土している。今から4000年~3000年前の、縄文時代後期に人びとが住まいの一部として利用していたと考えられる。
＜交通＞J R 松江駅からバス50分
森山郵便局前下車すぐ
＜いにしえ＞4巻P27

古い町並みと調和


青石畳通り

 美保関町美保関
美保神社の鳥居をくぐり

右に曲がると、仏谷寺への通路は石畳になっている。神社前の通りには北陸地方から運ばれた越前石が、本通りには周辺の海岸から運ばれた凝灰岩が敷かれている。この青石畳通りが以前の本通りで、江戸時代後期に造られたものだ。当時の面影を残す古い町並みと石畳の道が、落ち着いた風情をかもし出している。
＜交通＞J R 松江駅からバス80分
美保関バス停下車、徒歩5分

海の神さま


美保神社

 美保関町美保関
＜指定＞国重文・建造物(本殿)・有形民俗文化財

(諸手舟ほか)県・有形民俗文化財(港棧橋の近く、山手にある『出雲国風土記』にも記された神社。祭神の事代主命が恵比寿様といわれ、古くから漁業と海上安全の神として信仰を捧げられてきた。行基開祖とされる1000年以上の歴史を持つ寺院。後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐へ配流になったとき、途中の行在所になった。門の右手の大日堂には、国重文に指定されている5体の仏像が安置されている。いずれも平安初期の一木彫り、素朴でダイナミック、地方色豊かなところが魅力。
＜交通＞J R 松江駅からバス80分
美保関下車、徒歩5分
＜連絡先＞0852-73-0506
＜いにしえ＞6巻P20

船に乗っても見に行きたい


サルガ鼻洞窟遺跡

 美保関町森山
＜指定＞国・史跡

中海に突き出た岩肌に侵食されて開口した洞窟。大小4つあり、最大のは幅4m、奥行き50m、高さ4mの規模を持つ。中からは数多くの縄文土器や石器などの遺物が出土しており、長期にわたって縄文人の暮らしの舞台であったことがうかがえる。ぜひ見学したい遺跡だが、陸地つたいには行けないので、船で渡らないと近くで見学できないのが残念。
＜交通＞J R 松江駅からバス55分
森山入り口下車、要渡船
＜いにしえ＞4巻P26

珍しい石室


海崎古墳群

 美保関町海崎
美保関小学校東の道を軽

尾方面へ向かう途中の峠にある古墳群。西側に横穴式石室が、東側に竪穴式石室を持つ古墳がある。後者の石室は長辺の壁を薄い板石をたくさん積んで造っており、珍しいタイプ。
＜交通＞J R 松江駅からバス75分
五本松公園入口下車、徒歩25分
＜いにしえ＞3巻P23

やはり古墳はあった


居地分家後古墳

 八束町江島
八束町には現在2つの古墳

が知られている。この古墳は民家脇にある横穴式石室で、天井石などが失われているが、コの字に石積みが残っており、付近には土器片も見られる。もう1つは西ノ後古墳で、現在は消滅しており、出土した須恵器から6世紀後半に造られたものと推定される。今のところ大根島には古墳が見つかっておらず、この江島のみある点から、奈良時代に大根島にあったといわれる牧場がこの時期にまでさかのぼる可能性も指摘されている。
＜交通＞J R 松江駅から車45分

タコとムカデ伝説

蛸蛸神社

 八束町江島
奈良時代の『出雲国風土記』には、「古老の言い伝えて、今日御崎方面からワシがタコをくわえて大根島に止まり、大根島のタコがムカデをくわえて江島に来たことから、島の名前がタコ島、ムカデ島となった」と書かれている。ところが本来大根島にあるはずのタコ神社が江島にあることや、大根島のほうには牧場があったことも記載されていることから、初めは2つの島に人が住んでいたが、牧を造るために、大根島の人びとは神社と伴に江島へ移り住んだのではないかという説もある。

＜交通＞J R 松江駅から車45分
＜いにしえ＞5巻P28



美保関町森山のサルガ鼻洞窟遺跡は船で渡らないと見られないが、泳いで行かないと見ることができない遺跡もある。含霊塔下遺跡がそれで、深さ数mの中海海底にある。ここからは残り具合のよい縄文土器や石斧などが見つかっており、その様子は潜ってみないとわからない。